

松崎理事 科学警備講習会の立ち上げについて 青柳PJリーダー お願いします。

青柳リーダー 工業会日本万引防止システム協会（JEAS）理事会にて、「科学保安講習会プロジェクト」のリーダーを拝命させていただくことになりました青柳と申します。このプロジェクトの目的を説明させていただきます。

万引犯人を大別すると職業型と素人型の二通りに分けられ、素人型の常習犯人は日常必要な食材などを同一店舗で万引を繰り返しており、保安員が捕捉排除できるケースが多いです。しかし、職業型の転売目的、窃盗集団は短時間・大量・高額・広域で犯行に至る例が多く、警戒が難しいのが現状です。

科学保安とは、当工業会が推奨認定した最高レベルの顔認証システムを活用し、窃盗集団の顔を登録、類似した人物の来店を早期に認識し犯行の未然防止を行う保安警備を指します。それでも万引を敢行してくる人物は、保安員が警戒態勢を取り、犯人を捕捉（現行犯逮捕）します。さらに東南アジア系犯罪グループのように組織的広域的な窃盗団には警察力の行使が必要になっており、犯罪の立証のためには現場を担う科学保安員が日頃からデータ分析力を養っておく必要があります。

昨今はネットオークションやフリマアプリ、フェイスブックなどのSNSでの情報が万引犯行を助長する時代です。万引品が安易にそれらの転売サイトで取引される前に、店舗側で万引が出来ない環境作りを行っておくことは店舗の安全を護る警備員の使命です。その使命を真にまっとうするためにリーダーをお引き受けしたいです。



科学保安講習会プロジェクトは、カメラ画像安全利用推進委員会を構成する顔認証システム開発メーカーと技術力に長けた保安員と施設警備員が最新情報を学び合うプロジェクトです。

次世代を担う科学する保安警備員を育成するために、JEAS 各社と個人情報保護という大前提を担保しながら、警備業務の飛躍的な生産性向上を目指した科学保安講習会を10月22日（金）に開催する予定です。皆様の忌憚りの無いご意見をお待ちしております。

* * * * *

「第1回科学保安講習会」概要

1. 目的

JEAS 推奨顔認証システムを使って、効果的に安全に保安業務を遂行（分析や会議報告も含む）できるようになる。併せて、JEAS 認定個人情報保護団体ページの各冊子を完全理解していただくことを目指します。

2. 日時と会場

日時：10月22日（金）13:00～17:00

会場：YOTSUYA TOWER 7階 高千穂交易
（株）セミナールームまたは Teams 参加

3. 対象者：保安業務、施設警備業務、防犯・ 総務系業務、LPサポートに関わ る方々

4. 発行予定の修了証と店舗告知POP



第1回科学保安講習会 PDF

<https://www.jeas.gr.jp/pdf/20210603-2.pdf>



事前「保安警備」基礎講習

保安警備業務の手引 第2版 講習会スケジュール

日時 9月17日(金) 14:00~16:00にオンライン<Teams>で開催

必携テキスト：保安警備業務の手引 第2版注文書 (Excel)

詳細：<https://www.jeas.gr.jp/pdf/20210603-3.xls>



松崎理事 JEASメルマガ、ロス対策士試験、ロス対策年間チャートについて、近江副会長よりお願いします。

近江副会長 今ほど、青柳リーダーより、お話があったJEASメルマガの6月9日号はロス対策士試験につ



いての配信が予定されています。ロス対策年間チャート2021年度版は6月15日に最終版を発表される予定です。ロス対策メルマガで皆様のロス対策年間チャートの最新版のお送りする所存です。ロス対策は何よりも正しい情報が命です。その情報のライフラインを果たすのがロス対策メルマガですので、皆様、ご登録をお願いします。過去の配信もアーカイブされています。



「ロス対策メールマガジン」登録 <https://www.jeas.gr.jp/mail.html>

※なお、ロス対策士の最新情報は万防機構のホームページをご参照ください

松崎理事 JEASではこれ以外に、DX推進プロジェクトが発足し、三宅の田中崇リーダーを中心に活動を開始しました。首席アドバイザーとして、セキュリティ産業新聞社 編集長 野口勇人氏が参加されることが決定しています。

第2部 記念講演会

通常総会の第二部ではお二人の識者にご講演いただきました。そこでその要旨を紹介します。最初は東京都立大学人文社会学部助教の掛川直之氏に「万引きを生きる手段にさせないために～犯罪行為の背景に目を向ける」と題してお話をいただきました。

1. “万引きを生きる手段にさせないために～犯罪行為の背景に目を向ける”

東京都立大学人文社会学部助教

掛川 直之 先生

刑法犯認知件数検挙人員数は右肩下がりで推移している。つまり全体としての犯罪件数は減少しており、それ自体は歓迎すべきものであるが、一方で問題点もある。ここでそれを指摘しておきたい。第一に再犯者が多いこと、第二に高齢犯罪者の増加、そして知的障害者の比率が高いことである。

